

嗅覚リハビリテーションの奨め

K. H

嗅覚リハビリテーションの分野は日本でも研究開発が進み、北里大学を始めとする先生方の長年にわたる研究成果のお陰で、私も嗅覚リハビリテーション講座に参加する事が出来ました。

そして、新しく開発されたリハビリテーションを行為の器具『りすめる・Re・Smell』を使用。NAIM（鼻腔通気法）を用い、遊び感覚で試す事が出来ました。

喉摘者は、永久気管孔から呼吸する為、鼻への気流が無く、その為、嗅覚障害を引き起こします。『りすめる』は気流の発生が確認しやすいように、鼻から空気を送り込むとボトル内の水に気泡が発生する仕組み、それにより鼻から気流が生じた事を視覚確認出来ます。

NAIM(鼻腔通気法)も要領が分かれば簡単に習得出来、そして、いよいよ次『匂いの検知』と『匂いの認知』を行いました。

匂いの検知とは？

匂いの存在が解ると言う意味です。

匂いの認知とは？

それが何の匂いか識別出来ると言う意味です。

手術し、匂いから遠ざかった3年間、鮮明に思い出す匂いもあれば忘れかけた匂いもあります。今の時点で何が大事かを自問自答、今嗅いでいる匂いが脳の意識と結び付けば良いなと思いました。

嗅覚リハビリを始めて3週間、少しずつですが匂いの感覚（認知）が戻り、因果関係は解りませんが、一回に食べる食事量も増えて来ました。（約1.5倍）、食道再建、胃管吊上げ、空腸移植手術を受けた関係で、一回の食事量は健常時の三分の一、空腹感はあるのに食べられなくて、数時間後、残りを食べるという不便さを感じておりました。このリハビリで私のQOLが上昇し日常生活がより楽しくなり、これは絶対に続けねばならないと思っております。

